



2015年7月29日放送

印象に残る症例②

済生会山形済生病院 リハビリテーション科 **伊藤 友一**

今回は、当帰四逆加呉茱萸生姜湯についてです。冷えがポイントで長く持続する下腹部中心の痛みにも有効な処方です。また、原因がはっきりしない冷えを伴う慢性疼痛にも有効です。

69歳 女性 主訴は、腰痛と両下肢の痺れです。

他の病院で、急に出現した腰臀部痛のため脊柱管狭窄症の診断のもと第3-第4腰椎間の腰椎開窓術を受けましたが、術後もまったく症状が良くなりならず色々な治療を試しても変化なく困り果てて当院へ紹介となりました。旦那さんに付き添われて車椅子で受診されました。1人で立位になることは難しい状況でした。印象的だったのは、衣類を重ね着して診察する際に時間がかかったことのでかなりの冷えがあることが窺えました。

身長 160cm、体重 61kg Body Mass Index (BMI)は、23.8で軽度肥満がみられます。食欲は普通にみられました。

腰椎単純レントゲン写真では、軽度変性所見がみられる程度です。全脊椎のMRI画像では、手術部位の除圧は良好で、その他の部にはっきりした異常所見はみられません。脊椎手術後に痛み症状が改善しない、いわゆる“Failed Back Surgery”状況での治療となりました。

他の薬剤の無効な難治性疼痛であります。このような症例は、様々なアプローチで包括的な治療が必要ですが、良く傾聴後漢方治療を試みました。食欲が普通で、手足の冷えや、

昔しもやけが出来たことがあることを指標にツムラ当帰四逆加呉茱萸生姜湯 7.5g と冷えが強いと判断し修治ブシ 1.2g を1日分3で投与しました。筋弛緩作用のあるリンラキサーを併用しております。

経過です。当初の2、3ヶ月では内服後も余り効果がみられませんでした。治療半年経過で徐々に症状が改善しました。1年経過でよっぽど歩けるようになり笑顔も見られるようになりました。現在、修治ブシ末 N を 0.9g に減量して5年半経過しております。症状は、腰痛は落ち着いており家の中では杖なしで歩行可能なまでに改善しており診察室にも歩いて受診出来るようになりました。漢方薬は、本人の希望で投薬継続中です。

当帰四逆加呉茱萸生姜湯は、当帰・桂皮・芍薬・木通・大棗・細辛・甘草から成る当帰四逆湯に呉茱萸・生姜を加味した9つの生薬からなる処方です。四逆とは四肢の末端から逆に肘膝以上まで冷えを呈することを言います。呉茱萸、生姜などの温熱性の薬物を用いて裏寒を改善する方剤です。

薬理作用に関しては、神経障害生疼痛モデルの動物実験での鎮痛効果があるとの報告がみられますが、西洋医学的な詳しい薬理作用ははっきりしないのが現状です。

効能効果は、しもやけ、頭痛、下腹部痛、腰痛で特に慢性に経過した腰痛に効果があります。

虚証であって寒証、冷え症の治療に用いられます。手足の冷えがあり、冷えると痛みが増強する、あるいはしもやけの既往がある方に適応があります。下腹部や腰部の外科的手術の既往がある場合にも多く用いられています。

処方のポイントとして以下のものがあげられます。疼痛は、つれる、突っ張るという状態のものが多く、痛む部位が一カ所であることは珍しく、多くはあちこちで痛む傾向があります。四季あるいは1日の気温の変動で寒さが強くなると症状が悪化します。より慢性化したものや病状の重篤なもの、慢性に経過する疼痛を主訴とする症例に適応があります。

もともとブシ末は含まれていませんが、冷えや痛みが強い場合は、ツムラの修治ブシ末の併用を勧めます。ブシ末は、8年ほど前に新しくなりました。従来の1/3程度の量で使用します。高齢者には、初めに1日0.6から1.2g ぐらいの量を分2か分3で投与しています。

ブシ末には、鎮痛作用の他に温熱作用もあり、冷えが強いこのような症例には効果が見られます。

ブシ末の副作用としてまれに、のぼせ、食欲不振、下痢、便秘、発疹などがみられる場合がありますが、投薬中止や減量で改善する場合はほとんどです。

最近、動物実験でブシ末には脊髄のアストロサイトが活性化するのを抑制し痛みが慢性化するのを防ぐ作用があることが報告され大変注目されています。

この症例は、脊椎の手術後に改善しない難治性疼痛に冷えやしもやけの既往を目安に当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与した症例です。難治性疼痛は、治療に難渋しますが、漢方薬は、治療の有力な選択肢の一つです。

難治性や冷えが強い場合は、この症例のように症状の改善が得られるまで少し時間を要するようです。当帰四逆呉茱萸生姜湯は、婦人科的手術後や腹部手術後の疼痛に用いられ手足の冷えがポイントとなり痩せ型の女性に適応になります。しかしながら、このような軽度肥満でも手足の冷えがある場合も慢性の痛みが長く続いている場合は使用できると思われれます。また、画像診断などで明らかな異常所見の見られない慢性疼痛にも効果があるようです。次にそのような症例を紹介します。

症例 73歳 女性 腰痛と両足底の違和感を主訴に受診しました。

これまで神経内科の諸検査で明らかな異常所見がなく、困って当院を受診しました。既往歴に甲状腺腫があります。身長 150cm、体重 38kg、Body Mass Index (BMI) 16.9 と痩せ型です。当院で施行した脊椎の MRI 画像では、脊柱管狭窄などの明らかな異常所見はみられませんでした。

治療：手足の冷えがあり風呂に入ると楽になることとしもやけの既往があることから当帰四逆加呉茱萸生姜湯 5.0g を 1 日 2 回で投与開始しました。

この症例は、比較的早く効果が出現しました。3 ヶ月内服で症状改善し 6 ヶ月投与で終診としました。

慢性化した腰痛に対して当帰四逆加呉茱萸生姜湯を投与した症例について報告しました。慢性化した痛みにも有効で手足の冷えやしもやけの既往と冷えによって痛みが増強するかを確認することが肝要です。ただし、症状が長い間続いている症例では、症状の改善に時間を要する場合があります。